

つながる社会を支える セキュリティ特集に寄せて



富士通株式会社 執行役員常務

齋藤 淳一

人類の活動範囲は、陸から海、空、宇宙、そしてサイバーへと広がってきました。現在、日々の社会生活や経済活動の多くがインターネットを介してサイバー空間上で行われ、それを通じて得られた知見、情報、生み出された富、それらの記録やデータといった有形無形の資産も、サイバー空間に日々蓄積されていくことになりました。

その一方で、新たな脅威となってきたのがサイバー攻撃です。ひとたびサイバーセキュリティ事故が起きれば、情報漏えい、機会損失、企業価値やブランドの毀損などに加え、事業継続性そのものが脅かされたり、公的資格を喪失したりするなど、経営や組織運営に甚大な被害が残ります。

このような事態を防ぐためには、通信基盤、情報システム、様々なデータなどのICT資産を技術的に守ることにとどまらず、世界各地域の規格や標準に適合することや、あるいは攻撃の踏み台にされることで間接的な加害者とならないようにすることなど、求められる対策は多岐にわたります。

富士通は、ネットワーク、システム技術、多様なデジタルテクノロジーなどの広範な先端ICTに加えて、お客様の業種・業務や運用に関わる知見、先読みした脅威インテリジェンスなどをトータルに融合することで、安全なサイバー空間を実現するケイパビリティを磨いてまいりました。日常のセキュリティ対策から、事故時の分析と事態収拾、再発防止策の立案、あるいは専門人材の育成など、お客様業務の様々な場面に寄り添ったサービスをご提供することで、業務停滞や経営被害の極小化をご支援してまいります。

本特集号では、サイバーセキュリティに携わる富士通の事業部門や富士通研究所、グループ会社に取り組んでいる、最先端の技術やサービスを多岐にわたってご紹介するとともに、富士通が考える「つながる社会を支えるセキュリティ」の方向性についても触れておりますので、ご一読をお願い申し上げます。

今後も、残念ながら、サイバー攻撃自体の巧妙化や複雑化は進むと思われていますが、富士通はサイバー空間の安全で健全な発展をグローバルなレベルで牽引してまいります。